

僕も家ではほとんどスマホを見てはまるで、一度書き込むと消えないで、気をつけなければいけないかなーと思った。SNSでのいじめは聞いたことがあったか、実際に被害にお金を払うなどがあるておこうとした。それが、何百万にもなって、それは子どもが出せる額ではなく、親にも迷惑かかるので、日常生活の中でSNSでのいじめはいけないと思った。今は、小さな子どももスマホをもつて人も増えてきて、書きこんでも、えんぴつのように消せるとちう子も多いと思うので、こうして講演と小学校でも行ってほしい。最近はコースを見なくなくな、きて、知らないかったことがたくさんあるので新聞はとつながら、まずはネット記事を見ようと思いました。SNSを使うときには気をつけていることがたくさんあって、知らない人はどこに行かないや、住所や名前など個人情報を書きこまないなどたくさんあって、まだまだ知らないことがたくさんあるついで、使う時には、細かい注意を払って使っていこうと思つた。

SNSでは、直接・語っているわけではないので、意味をとりまちがえることもあると学びました。相手に正しい意味で受けとつてもううためには、送る前に考えるということが大切だと分かりました。SNS上でや、学校でのいじめは、大人にはたとえに裁判が起こることもあって、それでだけ、被害者の方が苦しんで"といふことはなくてないと思はしました。いじめの加害者も悪いけれど、いじめているのを見ていることもダメなことで、いじめの被害者を助けたり、注意するなど、行動することが大切だと感じました。SNSは便利だけど、使い方で相手を傷つけたり、自分が傷ついたり、信用をなくしたりするので、将来のことや、相手のことも考えて使えるようにしています。SNSでアップした情報は、残りっぱげると知り、驚きました。はじめも考えずにアップしたり、相手に確認せず写真をアップしたりすると、直接、いじめたというわけではないかもしれないけど、誰かが傷つく可能性があるのかもしれないと思い、SNSの使い方は難しいなと感じました。SNSを利用している人、金員が楽しく安心。安全に使えるようになるには、1人1人が"自己中心"的な行動をしてないことが、1番大切なと思います。西見記者が"取材をするときに、"が"ケーロニコ"で"えらそくにしないこと"と言っていた、SNSでも、友人やクラスメートにでも、"えらそくにしないこと"というのが、大切だ"と思いました。優しい人間にばれて、いじめられている人を助けられるようになります。

この場で1度書いたことは消せないといわれても時間が経たる、楽しい時間を過ごしていくたりするときの投稿でも忘れていてはいけないので、と初めておかなければいけないと思いました。1対1はいじめではないって言っている人がいて、でも私はその言っている人の周りにも同じ仲間がいて1対ではないことを知っているので、小さな芽から摘み取っていきたい。最近はSNSを通じてのトラブルも多く、本当に解決も一筋縄ではいかないと思った。事実がある以上に影もあって、人間関係って難しいし、SNSも、人として共通の正しい学ばなければならいいと思う。投稿するのも、全て自分が決めることが慣れてまでも、1つ1つの重さというのを忘れずにいたい。苦しんでいる人がいるかもしれないけど、軽い気持ちでいたことでは許されないこともある。1年ずつ成人に近づくにつれてSNS、対面を問わず、発信、発言には責任を持って過ごしたい。特にSNSでは直接言えることはそのままでも良いが、そうでないことが多い。スマホなどの使用の怖さを改めて感じた。これからは楽しいこともしたいが、小さなことでも気をつけたい。そして責任を持つ人間になりたい。

・ SNSは気軽に使って楽しいものだけど、使い方を間違えると自分が被害にあってしまうので使う時のルールを親と決めて使うようになります。いじめは小学生の時にやっている人達がいたけど、当時は被害者側にたくさん支えてくれている人がいたから大事にはならなかたけど、みんなが自分がいじめられると怖くて被害者側に付けてあげないか?たらどうなっていったのかを考えただけて懐かしくなりました。いじめが起きた時は、加害者でもほう観者にもならず、すぐに先生や親などの大人に相談して早急に対処してもらおうと思いました。

LINEやインスタのDMとかで友達と話している時にどちらの意味で話しているのか分かりずらいや言葉が送られたりするから、どうなさいな等も問題が起きると聞いて使う時に送るのかどうか考えてから送るかと思いました。いじめをしている人は、大人には誰か分からぬと言っていたのでいじめが起きたらすぐに先生に言おうと覺りました。話に出した写真、加工は、使用する人は多くて問題が起ころやすないので、みんなが注意して使用したらいいと思いました。

自分はSNSを使っていろいろ中でいじめられることもいじめられた経験もないため関係ない、という思いが根付いていました。しかしそれだけ善意であっても、文字だけでは相手を理解しきることはできないことを知りました。その人が何から何まで抱えているかもしない、本当に思っていることを文字だけでは面倒くさくて伝えきれないかもしない、などの相手を理解しようと心構えがいかに大事かが分かりました。自分のこの返信は相手の話と噛み合っているのか、本当に伝えてほしい情報なのか、SNSでは自分の文を見返すことでの相手を理解しようとしました。いじめに合った方々の意見を聞いたのは今日がほぼ初めてでした。そのような方たちの心をSNSで二重に傷つければたえきれないなるだろう、といづれとも想像できました。自分はSNSの投稿もまだ経験したことありますんが、いつか自己満足のためだけに投稿したくなる日が来てしまふと考えます。そのようなときSNSを「自己満足の道具と思わず離れていても人づながれる手段」ということを胸に刻もうと思いました。

今回の西見記者のお話を初めて「ロフ」というモノを知り、それが消えることのないものだということも知ることができました。

今までの私のように、自分の今までのSNSの記録が残り��けていくことを知らない人も沢山いると思います。そんな人が「滅」、沢山の人が自分に責任感が持つてゐるような社会、世の中に変わったことを感じました。また、世界中の少女が「インスタグラム」、「ツイッター」、「楽レミー」、「キラキラ輝いてる」のような写真を見ることが、みんな楽しいと感じていると思うのです。

実際に私はそういう感じ方で「インスタで楽しんでいたので、本当に人によって考え方や、ものの見方、感じ方が違うんだ」と改めを感じました。インスタだけに限らず、自分達では楽しいことが他の人には迷惑である、いやではと思うようなことは何かかもしれないと思わされました。

最後の上田さんの質問に対して西見記者がけんきょに接するようにしてみると、しゃっていったことが印象に残ります。相手が「たとえウソをついていたとしても、きっと相手もついから...と、そんな状況下で相手の気持ちを考えつつ、自分の仕事に向き合っている西見記者に人としづの思いやりを感じました。どんな状況であれ、相手に共感するなどして寄り添うとしている西見記者の考えを聞き、自分もそんな人になりたいと思いました。沢山の事を感じ、学ばせていただきました。

西見誠一記者 「SNSといじめ」 2022年(令和4年)1月26日(水)

私はみんなよりスマートホンを持つのが遅かったのでSNSの危険をあまり知りませんでした。なので今回の話を聞いて自分の言動に気をつけようと思いました。一度送信してしまったら二度と消えることはないのですが気をつけたくなります。それにもしいじめにあってる人を見かけでも怖くて何もできませんでした。  
自分がPTSDという病気にかかるてしまう人を一人も増やしたくありません。それにお金で解決できる説でもあります。こんな辛い思いをしたのでお金で解決させようなどとか今後一切無くなつてほしいです。そのために私たちが相手がこんなことを言われたら悲しくなるかもしれないし一度冷静になつて考えたいです。  
新聞は常に真実を教えてくれるものです。その新聞を読んでこのような思いをしている人がいればあらためて自分の行動を思い直して誰もが辛い思いをしない世の中をつくりたいです。一人一人の存在が誰かを幸せにしていることを忘れないに過ぎないです